コムカシハナバチ

Colletes perforator Smith
ハチ目・ムカシハナバチ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類　旧：県域絶滅危惧Ⅱ類　【環境省カテゴリー】―

選定理由

本種が生息する河川敷や砂浜海岸で2年にわたり徹底した調査が行われたが確認できなかった。県内での生息は非常に厳しい状況にあると判断される。

種の特徴

体長10㎜弱。日本産ムカシハナバチの中では最も小型。胸部は黄褐色の毛で覆われ、腹背節の後縁には白色の毛帯がある。砂浜海岸や河川敷に生息し、9月中旬～10月にかけて成虫がみられる。地面に穴を掘って巣を作り、花粉や蜜を集めて幼虫を育てる。

分　布

本州、九州、対馬に分布。県内では三里浜、勝山市中島、下荒井、大野市花房、森目、麻生島、唯野等海岸地域と九頭竜川流域で記録があったが、今回は確認できなかった。

生息を脅かす要因

海岸、河川敷の開発が減少の主要因である。

参考文献 福井県自然保護課（2002）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○				○	○	

ホシチャバネセセリ

Aeromachus inachus inachus (Ménétrès)
チョウ目・セセリチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類　旧：県域絶滅危惧Ⅰ類　【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

県内で記録があるのは3地点（2メッシュ）と非常に限られており、ここ数年確認されていない。全国的に近年記録があるのは21県にのぼるが、生息の確認されている地域の多くで絶滅かそれに近い状態にある。本県の生息地も非常に危機的な状況にあると考えられる。

種の特徴

小型。表は黒褐色で、前翅の中室端に小さな白点、外中央に白点列がある。後翅は無紋。裏面は黄褐色で、白斑列がある。通常山地では7～8月、低地では6～7月と8～9月に成虫が現れる。人為的に管理されたススキ草原や疎林等に生息し、イネ科のオオアブラススキを食草とする。

分　布

本州、対馬に分布。県内ではあわら市鎌谷、清滝と小浜市から比較的最近の記録がある。1933年には旧金津町細呂木でも採集されているが、再確認はされていない。

生息を脅かす要因

各種開発、植林、圃場整備によって生息地が消失するのに加えて、里山や草地の管理放棄によって良好な草地環境が失われていることが本種の減少の主要因と考えられる。

参考文献 福井縣博物學會（1938）、福井県自然保護課（2002）、環境省（2015）、日本チョウ類保全協会（2012）、白水（2006）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○								○				

クロシジミ

Niphanda fusca (Bremer & Grey)
チョウ目・シジミチョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅰ類　旧：県域絶滅危惧Ⅰ類　【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

全国各地で減少が著しい。県内ではかつては安定した生息地があったが、林道舗装等各種開発や採集圧により激減した。絶滅の危険性は高いままであり、絶滅危惧Ⅰ類のランクを維持。

種の特徴

小型。オスの翅表は暗紫色の光沢があり、メスでは黒褐色、白青色の鱗粉が出るものもある。メスはアブラムシ等の寄生した付近の草木に産卵する。幼虫はアブラムシの甘露をなめて成長し、3齢幼虫になるとクロオオアリの巣に運ばれて、アリから餌を与えられる。成虫は6～8月に出現する。

分　布

本州～九州に分布。県内では大野市内に生息地があるが、そのうちの一つでは特に個体数の減少が著しい。

生息を脅かす要因

林道舗装等各種開発、草地や雑木林の草刈の放棄等による環境変化が脅威となる。また、県内の生息地に多くの愛好家が集中した結果、採集圧も大きな脅威となっている。最近では成長に重要なクロオオアリの減少も影響していると考えられる。

参考文献 福井県自然保護課（2002）、環境省（2015）、日本チョウ類保全協会（2012）、白水（2006）

市町別生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	